

2015 年度

南花台での取り組み

大阪府河内長野市南花台地域を舞台に行われているまちづくりの事業「咲く南花台」に建築環境デザイン研究室が関わり様々な取り組みを行っている。



南花台地域を望む。



居住実験住戸からの眺め。団地と山々がみえる。

団地の一室で居住実験 マルチ住む de 南花台

マルチ住む de 南花台 (以下 マルチ住む) は、「住民による主体的な地域活動を生むきっかけづくり」や「既存団体の枠を超えた多世代交流の実現」を目的とした総勢 22 人の学生で構成されるチームであり、南花台団地の 1 部屋を利用し、2015 年 3 月から 2016 年 2 月末までの 1 年間マルチハビテーションの検証居住実験を行った。実験は、「マルチズム Multi-ism」という独自の考え方をもとに実施。「マルチズム」とは、それぞれの自宅と南花台団地の一室とを単に行き来するのではなく、自分が住むまちと南花台地域の両方のまちでの暮らしを選択しながら生活することを目的とした暮らし方である。マルチ住むは南花台地域での活動にあたり、地域住民との交流に重きを置き、あらゆる活動をきっかけに交流を重ねた。その結果、地域住民との信頼関係を築き、地域の小さなコミュニティにも参加できるようになり、それまで関わりのなかった地域住民との交流も生まれた。



興味津々の子どもたちも巻き込んでみんなで塗装



まちから見える場所で行う。会話のきっかけに。



真っ赤な手摺りに生まれ変わり、まちの風景の印象に変化が。



住民に誘われた南花台で行われるだんじり祭り。



住民と登った一徳坊山、南花台を一望できる。



居住実験住戸からは PL 花火が見える。

地域の錆びた鉄部をみんなで塗装 塗ってみよう会

咲く南花台に関わる学生メンバーを中心に、地域住民も含めてコノミヤ南花台店のサビが目立つ鉄部を、DIY で塗装するという取り組みである。新しくペンキを塗りなおすことで、変化する予感・期待感を持ってもらうと同時に、学生が地域に入り込むキッカづくりが目的である。2015 年 5 月 31 日から 9 月 27 日まで計 12 回実施した。第 1 回目は、塗装職人からのレクチャー形式のワークショップとし、その後は学生主導で行った。細かな作業のため、少しづつしか、変化しないが、まちから見える場所で作業していると、通りすがりの地域住民からの声掛けや作業に参加してもらえることもあった。鮮やかに蘇った手すりに対し、地域からは高い評価を受けている。

365 日オープンのおかげを生み出す地域のコミュニティ拠点

コノミヤテラス



コノミヤテラス内部の様子。木の床には河内材を使用。



住民集会の様子。いくつかのグループに分かれて実施。

コノミヤテラスができるまで。

みんなの拠点コノミヤテラスは「365 日オープン」「気軽に訪れ、自由に交流や活動ができる拠点」をテーマに地域の潜在的な課題を見出すために、地域の人同士による意見交換や交流、新たな活動を誘発することができ、自由に訪れることができる地域の拠点として、2015 年 10 月 3 日に第一期部分を開設した。開設までには、月に 1 度地域住民の意見収集・交換の場として「住民集会」を開催。その意見をもとに拠点の使い方や空間整備を行った。



毎朝 10 時にラジオ体操



工事途中に歌声喫茶を開催してみた。



お茶会と作品展を同時開催してみた。

まずやってみる！活動の場

コノミヤテラスでは「まずやってみよう！」をモットーとしており、教室ごとや作品展、イベントごとなど住民のやってみたいを実践してきた。活動してみて分かった良いことや改善点を、今後の活動に反映させてステップアップしていく進め方である。大きなことをするのではなく、小さなことの積み重ねていくことが目標である。



勉強も遊びも。



ママさんと子供たちでお菓子作り。



世代間交流が生まれる。

若い世代の参加・多世代交流の場

地域の若い世代がコノミヤテラスに訪れている。小学生は宿題をしたり、自分たちで考えた遊びをしている。子育て世代の方は、井戸端会議やお菓子作り、手芸を行ったりしている。その中で新しい仲間・活動が生まれたり、今まで地域の中で交流することのなかった、世代間の交流が生まれている。



カヌーづくりプロジェクト

地域 × こども × 学生

テーマは生きがいと教育
 地元の木材に触れ、多世代とふれあう
 地域と学生が協働し、ものづくりをキッカケに
 まちづくりへとつなげるプロジェクト

世代を超えたものづくりへの取り組みの風景が
 河内長野市南花台で生まれました



こどもと大人が協働して
 木材のカット

こどもに木のことを
 教える学生

イチからものをつくることを
 一生懸命考えました

大人たちも子ども以上に
 本気で作業

製材所の見学ツアー
 松と杉の違いを覚えしました



河内長野市には多くの自然と多様な人材がありながら、人口の減少や住民の高齢化等の理由で住民間のコミュニティが薄れつつあります。カヌーづくりプロジェクトは、住民同士が協力し、一艇のカヌーを製作することにより、普段関わりのない住民同士が出会うきっかけとなることを目指したプロジェクトです。

カヌーをつくるだけでなく、林業ツアーと題しみんなで山を登り、製材所も見学しました。その他にも夏祭りや流しそうめんなど、たくさんの夏の思い出づくりも、地域のみなさんと協働することが出来ました。

作って終わるものではなく、個人で作れるものでもなく、まちの良い所を生かしたプロジェクトとなるように！
 ”地元の木に触れる→木を使ってみんなでつくる→浮かべて遊ぶことができる”という一連の工程を分かち合う。
 「河内間伐材を活用した手づくりカヌー」はみんなの気持ちをのせたものづくりでした。



進水の儀式！

手づくりオールの使い方講座

親子で進水！

小さいこどもも一生懸命漕ぎます！



総勢70名！
 たくさんの想いをのせたカヌーが無事に浮かびました！

進水式@滝畑ダム
 2015.09.20



プロセスをデザインする。

空き地、緑道、公園、南花台には使いこなせていない場所がたくさんある。南花台を使いこなすためみんなで「発見」を共有する。みんなで一緒に楽しみながら、南花台のオープンスペースならではの使いこなし方を見つけていく。



【家台】 やたい

ホーム（家）を持ち出す道具のこと。

南花台のいろんな場所に趣味ややりたいことを持ち出して、南花台全体を使いこなす秘密兵器。南花台がもっと楽しくなる。

青空レストラン

〇〇カフェ

野外シネマ

住民集会

UR 駐車場

公園

青空教室

出張コノミヤテラス

農園

みんながしたいと思うこと

タニタ健康仲間づくり

UR 緑道

空き地

空き家

いろんな場所

コノミヤ

下水場跡地

咲く南花台 ストック活用 WG 家台プロジェクト 南花台使いこなし隊

南花台
 南花台を活用したい！と思った時、もうあなたは「南花台使いこなし隊」です。誰もが使いこなせるように「家台」の目印をつくりまします。家台を貸し出すルールをつくり、誰もが気軽に南花台を使いこなせることを目指します。気軽に使うことで、誰のものでもない場所から、みんなの場所になっていきます。

家台プロジェクトでは、「南花台使いこなし隊」として住民と一緒に運営をしています。月一回の企画会議で議論しながら活動し、資金も補助金に頼ることなく、南花台を使いこなす参加者が負担することで、日常の風景となるきっかけづくりをしています。そこでは、住民・行政・学生という肩書きはなくなり、参加者全員が「南花台使いこなし隊」の一人です。



だんだんテラスは、関西大学戦略的基盤団地再編プロジェクトの研究の一環として開設されました。「365日オープン、自由に気軽に集まれる場所」を目指し、2013年11月16日にUR 男山団地の男山中央センター商店街の空き店舗にオープンしました。だんだんテラスの「だんだん」は「団地について議論」することを意味し、団地生活の日常にとけ込みながら、住民・行政・事業者・専門的な研究期間・学生と一緒に団地のミライを考えています。

だんだんテラスでの活動紹介

様々な活動が始まりました
だんだんテラスでは住民、学生、行政、企業など様々な人が主体となり、活動を行っています。そして、その活動は大きく分けて3つ。「交流の場」「団地・まちについて考える場」「情報発信の場」これらの活動はだんだんテラスでの日々の会話から生まれました。



100人で流しそうめん



料理教室



Dang Dang Bar



DIY ワークショップ



住まいの相談会



DIYで団地を改修

ふらっと立ち寄れる場所
活動以外にも、日常的にだんだんテラスを利用する人もたくさんいます。目的がある人もいれば、目的がない人もいます。散歩の途中にふらっと立ち寄り、お話をして帰っていく人。また雰囲気を感じて様子を見に来る人など、様々な使われ方がされています。地域に寄り添い、だんだんと団地再生を進めています。



夏休みの小学生たち



多世代の交流が生まれる

団地再生に向けた取り組み
団地の建築的解決に向けて、京都府建築士会の方に協働して頂き始めた相談会や、団地の住戸内を住み手で改修するためのDIYの椅子作り講座などを行ってきました。また、実際に学生が団地の住戸をDIYで改修し、モデルルームとして公開しています。活動を通して、団地や地域への興味・愛着を生むきっかけづくりをしています。



ふらっと立ち寄り

だんだんテラス開設
2013年11月16日、だんだんテラス開設。最初は、① 365日オープンすること、②野菜を販売するだんだん朝市。この2つが決まっていた中、だんだんテラスは始まりました。

地域の声を記録
だんだんテラスを365日オープンする中で住民との会話から、だんだんテラスの場所を使い活動を行う地域団体や個人が少しずつ増えてきました。

地域活動実現の場へ
そして2015年3月から、だんだんテラスが主催する住民の声を記録していくための「男山やってみよう会議」が充足し、新しい活動チームを生み出していくことを試みました。

男山やってみよう会議
とは
住みたい・住み続けたい男山地域であるために議論を重ね、何が出来るかを話し合う場です。

「住みたい、住み続けたい男山地域」であるために、幅広い世代が集い、まちづくりの方向性や具体的な取組みについて議論を重ね、何が出来るかを話し合い、できることから「やってみる」実践型の会議です。2015年3月から1年間で15回の会議を開催しました。
3/1・14・28 4/18 5/16 6/20 7/18 8/8 9/12 10/17 11/21 12/19 1/16 2/20 3/19

対話 ・会話の心得、他己紹介	● DIY ----- ● 夢プロジェクト ● 防災 ● まち歩き ● 居場所 ----- × 居場所	5 チ ーム 結 成	協働 京都八幡高校科学部さんが実験に協力してくれました。40名の子どもが集まりました。	情報 発 信	11/14 竹灯籠 11/14 秋祭り 12/6 防災訓練 11/29 境界を歩くまち歩き	活動 報 告 会
会議 ス タ ー ト	サポーター まち歩き、だんテラ拡充・継承チームには、新たに協力してくれるメンバーが加わりました。				コラボレーション 「子ども会議」で小・中・高校生が提案した提言の実現に向け、コラボレーションをしました。	

○会議から生まれたチームを紹介！

- 夢プロジェクトチーム**
男山の緑道や八幡の歴史を題材にイベントを開催。地域の魅力を発信し、男山地域のPRや活性化に取り組んでいます。
- DIYチーム**
ものづくりを通して、世代間の交流を図り、DIYの精神で住みやすい地域を目指します。
- ヤバいまち歩きチーム**
地域を歩いて、地域の人とお話をして、地域のヤバい(=魅力)を再発見するまち歩きを企画します。
- だんテラ継承・拡充チーム**
子どもから高齢者まで気軽に集まれるだんだんテラスを地域で受け継ぎ、活動を広げることを目指しています。
- 事務局チーム**
各チームの活動が円滑に進むように、時には見守り、時には一緒に汗をかくサポートします。
- 防災チーム**
日常の暮らしから防災について考える地域づくりのために私たちは活動します。

○多様な主体と協働できました！ - 夢プロジェクトチームのケース -

「夢プロジェクトチーム」の売りは、チームメンバーの仲間意識。時間のなかでも集まって話し合いを怠りません！

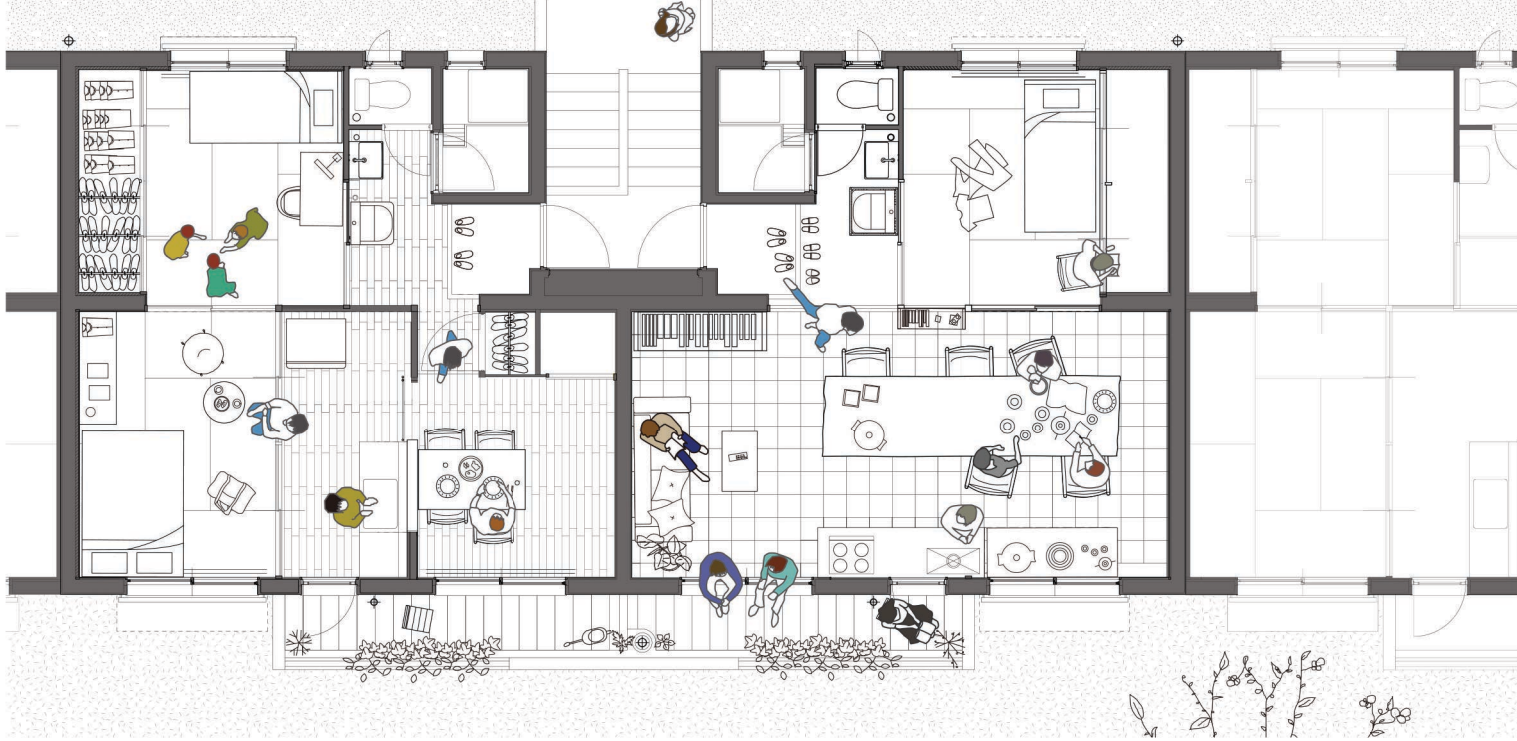
京都府八幡高校が学部さんと協力して開催した「フィラメント実験」。50人をこえる参加者が集まり、「エジソンの夢」を体験！

NPO 法人八幡たけくらぶさんにご協力いただいた、2度目のイベント「竹灯籠作り」。協働する仲間が増えています！

こ生のえ だんだんテラスに寄せられた生の声を発信していきます

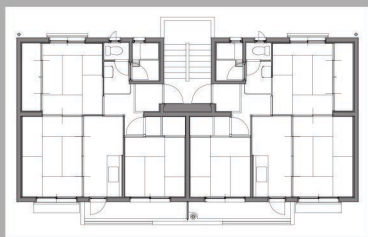
- @B地区住民** 毎年、この時期は「防災」に対する意識が高まるね。だんだんテラスは関西大学が関わっている事もあるし、「防災」について研究されている先生をお招きして、お話を頂く場を企画してほしいな。
#男山地域の防災
- @八幡市職員** 公園や道路でもそうだけど、URが管理する集合住宅団地の部分については行政は入る機会がなく、団地について協議することもなかった。関西大学とURと一緒にやらせてもらったおかげで、団地についていろいろ知れた。
- @男山泉住民** だんだんテラスを365日開けるのは本当に大変なことだと思う。自治会ではそのような場作りをしたいという思いがあっても実現はなかなか難しい。これから色々な場面で連携していきたい。
#意見交換会にて

男山子育て住戸改修



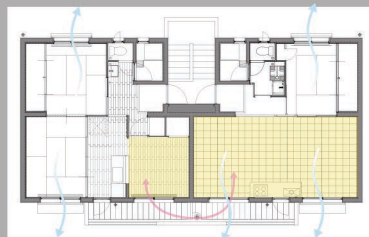
二住戸で繋がる事でうまれる暮らしの多様性

二つで繋がる既存の住居



既存のプランでは、部屋が細分化されていて外部をうまく取り入れられない。階段室を共有する2住戸が繋がることで、様々なライフスタイルが生まれる。

住み開きとテラスで繋がる住居



大きなキッチンとワークスペースを持つ東側住居と、テラス側に外部と連続するリビングを持つ西側の住居がテラスを介して繋がる。

多様な暮らしを知るために、様々な方にヒアリングを行いました！



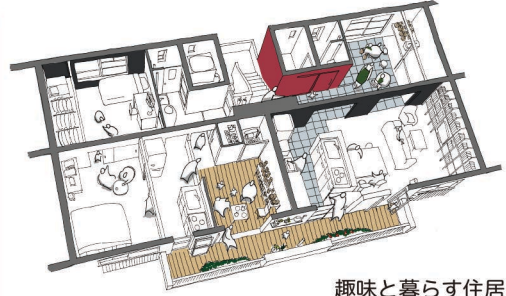
①5階であること（階段室の利用）②2戸1住戸（ベランダで接続、広い居住スペース）という条件から、近居にとどまらず、暮らし方を再考するべく様々な人にヒアリングを行い提案プランに反映させました。そこから暮らし方を考え家で過ごす時間を増やすことで、父親も母親も子育てに参加できる提案を行ったり趣味や教室、家族以外の人も多く出入りする暮らしを考えることで、子育ての相談や、仕事でいない間少子どもを預かってもらうことなど、人の関係性をつくる場としての住戸を考えた。



二年目を迎える男山住戸改修

去年から行われ、二年目を迎える男山住戸改修。去年の住戸改修からは平面の構成・水回りのおさめ方・予算との兼ね合いなどを二戸一住戸で新しい暮らし方を提案する中でも参考になり色々試行錯誤する事ができました。また継続して同じプロジェクトに取り組む事の重要性も感じる事ができました。

四人の学生によるいろいろな提案



趣味と暮らす住居



ルームシェアできる家



ママたちが気分転換できる家

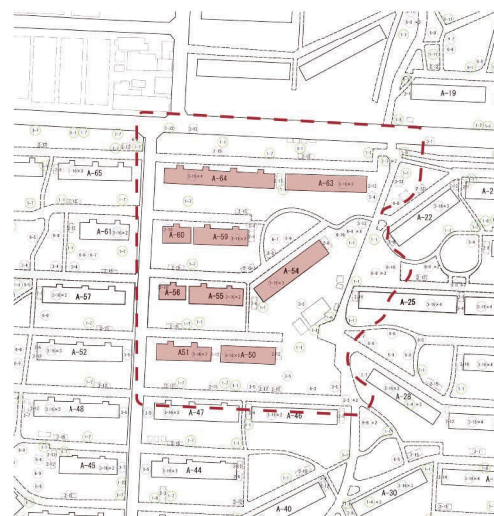


働きながら暮らす家



鉄部塗装

男山団地A地区の一部住棟（9棟）にて、UR都市機構による鉄部塗装工事（計画修繕）に合わせ、A地区のおひさまテラス周辺の一部住棟を対象に①玄関扉②バルコニー手すり③窓手すりの、屋外に面する部分の色彩決定アンケートを行い、住民意思による色彩決定を行った。この手法は単に計画者による不揃いの色彩のデザインではなく、地域の中にある色彩に一定のルールを定め、その中で住民自らを選択した住民の意思が反映した住景観を生み出すことを目的とした。

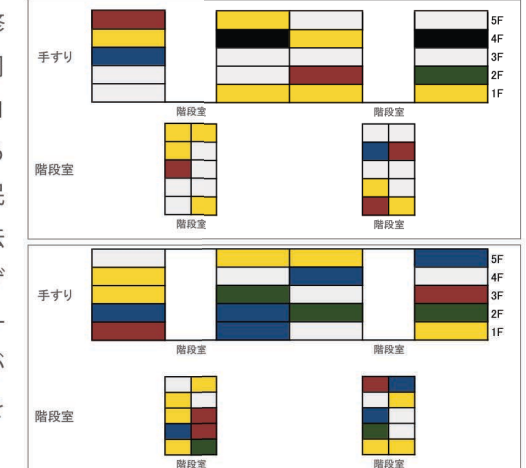


住民アンケート結果

	手すり		玄関扉	
	選択戸数	割合(%)	選択戸数	割合(%)
深紺(こひき)=赤	9	4.5%	6	3.0%
濃藍(こいあい)=青	21	10.5%	15	7.5%
鬱金色(うこんいろ)=黄	22	11.0%	33	16.5%
海松藍(みるあい)=緑	8	4.0%	7	3.5%
墨色(すみいろ)=黒	2	1.0%	1	0.5%
現状色=白	46	23.0%	42	21.0%
関大に任せる	13	6.5%	12	6.0%
未提出	48	24.0%	48	24.0%
塗装なし(※)	-	-	5	2.5%
拒否	8	4.0%	8	4.0%
空き家	23	11.5%	23	11.5%
計	200	100.0%	200	100.0%

※「塗装なし」に該当する5住戸は2014年度の「子育て向けリノベーション」の対象住戸で玄関扉については塗装済であるため除外した。

塗装配色一覧(上:A59棟、下:A55棟)



男山団地では、だんだんテラスなどの活動から、屋外空間の鉄部の劣化が老廃した感覚を与え、団地全体の印象を落としているなどの住民の声を聞くことが多かった。A地区の住棟の鉄部塗装を実施する周辺の屋外工作物①屋外金物②自転車置き場③パイプ柵④ネットフェンス⑤遊具⑥パーゴラ・ベンチを対象として、男山の魅力である緑道の自然の色に馴染む男山パレット9色を設定し、さまざまな色彩を取り入れることで生まれる新たな風景を創造することを目指した。

衣川會館改修プロジェクト

衣川會館改修プロジェクトとは、佐治の古民家を佐治スタジオ・学生・住民が協働して活用・改修を考えるプロジェクトです。衣川會館の第1期工事では、主に1階の工事を中心に行いました。しかし衣川會館の改修はまだ終わっていません。今後は1階部分をチャレンジショップ、コワーキングスペース、マチの居場所として活用しながら、第2期の運営・工事を学生、住民さんと協働しながら考えていきます。



衣川邸を考えるWS

佐治スタジオ・学生・地元住民で、「衣川會館」の運営・活用方法について一緒に考えるワークショップを行いました。他の地域での空き家活用の事例を紹介し、それをもとに意見を交わし、創造したアイデアを貯金していきながら、衣川會館の使われ方について考えました。



佐治地域の昔あった映画館や植えていた樹木などの過去にあったものを衣川會館で取り戻す案や、結婚式をする場や、シェアオフィスなどの新しく佐治地域にないものを提案したり、自由で夢のあるアイデアをたくさん出してくださいました。そうしてアイデアを3月20年の衣川會館お披露目会で、実際に試して、今後の衣川會館のあり方について探りました。

地域に学ぶ学生



佐治スタジオ・地元の住民さんや職人さん、木造の専門家、構造家の指導のもと、学生が衣川邸に足を運びました。学生は人やマチに学び、地域は学生の学ぶ環境を提供するという、継続的な学生と地域との関わりが生まれます。

ハウス in ハウスの概念で作られた衣川會館には人を気軽に招き入れる雰囲気を持っています。空き家の活用として、外から入りやすい雰囲気と作る段階からその後も、仕事を生み出す拠点としての性格を特徴として持たせる事でマチへの愛着や佐治のなくなった風景を取り戻しながら、「関わり続ける」カタチを探っていくのではないかと思います。今後の第2期工事も、住民さんと一緒に作ってきたいと思います。

建築環境デザイン研究室
橋本祐紀（修士2回生）



佐治農園 Re 活用 project



佐治川に向かう途中の大きな桜の木の下に「佐治農園」があります。数年前から手つかずで、草や雑木が伸び放題で、維持するのが難しいと問題に。そこで今回関西大学丹波企画部の学生と佐治スタジオの植地さんとで「佐治農園」を復活させるべく、草刈りや雑草抜きからはじめ、野菜を地元の野菜作り名人に指導してもらい、野菜を作ったり、「佐治農園」が交流や憩いの場になったりと、地元住民の方や学生、佐治スタジオが協働しながら空き地のあり方を探っています。

佐治農園 diagram



学生と一緒にいる”小屋づくり”や地域の人・学生で行った”ピザづくりWS”等色んな人を巻き込みながら行う「関わり続ける佐治農園」を目指します。

災害復興ワークキャンプ

災害復興ワークキャンプは、2014年に災害を受けた丹波市市島町で家屋の修理・修繕を行いました。災害後、ボランティアの方々によって床下の泥出しや掃除がほとんどの家屋で済んでいる一方で次のステップに行きたいが人手や経済的に難しいといった人も多く、その手助けをする事を目的としています。今回は蔵をギャラリーにしたり、柵を作るといったことを一般ボランティアと学生が協働して行いました。一般の人と混じりながら修繕の作業をすることで、私たちは建築だけではなく多様な経験を積むことができました。

災害復興のボランティアは単なる修復作業ではなく、人の繋がりを生み出すものでした。一緒に参加した方々との交流はその後続き、丹波内外の様々な復興現場で活躍されている様子を共有しあっています。災害という壁に対峙し協働する中で、丹波の被災地としての一面を知ることがたのしみと同時に、今後の復興の礎となるような人と人の繋がりを生み続けています。

建築環境デザイン研究室
阪井勇樹（修士1回生）



僕たちと一緒に被災家屋の修繕を行うボランティアの方を募集しています！！



ata 6

ATACOM 6

~ataらしさ、愛らしさ~

ATACOM とは

ATACOM(アタコム)とは兵庫県丹波市成松町の伝統的な愛宕祭に学生が参加することで、新しい風を送り込み、祭りをそして地域を盛り上げていこうというプロジェクトです。1年目からいまままで造り物の制作を通して愛宕祭に参加させていただいています。私たちは毎年自分なりのテーマを考えています。

今年のコンセプト「ataらしさ、愛らしさ」

ATACOMの活動も6年という節目を迎え、メンバー全員がATACOM3以降の参加者という新世代となりました。そこで、これまでのATACOMの意思を受け継ぎつつ、新しいATACOMを作り、愛宕祭やこの地域に愛着をもって活動することを目標とし、今年のコンセプトを「ataらしさ、愛らしさ」としました。

ATAGO COMPETITION 2015 「ツクリモノらしさ」

ATACOMでは毎年「造り物審査会」を行い、最優秀賞になった作品を実際に作り、お祭りで披露しています。提案を募集するにあたって毎年テーマを設定しています。今年のテーマは「ツクリモノらしさ」としました。

今年のツクリモノ「HANG TO THE FUTURE!!」

審査会では議論が白熱し、最終的に参加学生が最終2案で話し合いで今年のツクリモノを決めました。最終的に「ハンガー一式」を使ってバックトゥザフューチャーのタイムマシン「デロリアン」を作ることになりました。



地域との交流



地域から集める

今年、使われたハンガーのほとんどが成松の住民さんの自宅を手分けして周り、集めてきたものです。成松の皆様は快くハンガーを提供してくださり、また、知り合いの服屋さんに頼んでいただいたりと続々と集まり、最終的に「2146本」ものハンガーで今年のツクリモノが出来上がりました。



成松の若者のグループ「成松ロイヤルクラブ」との交流会

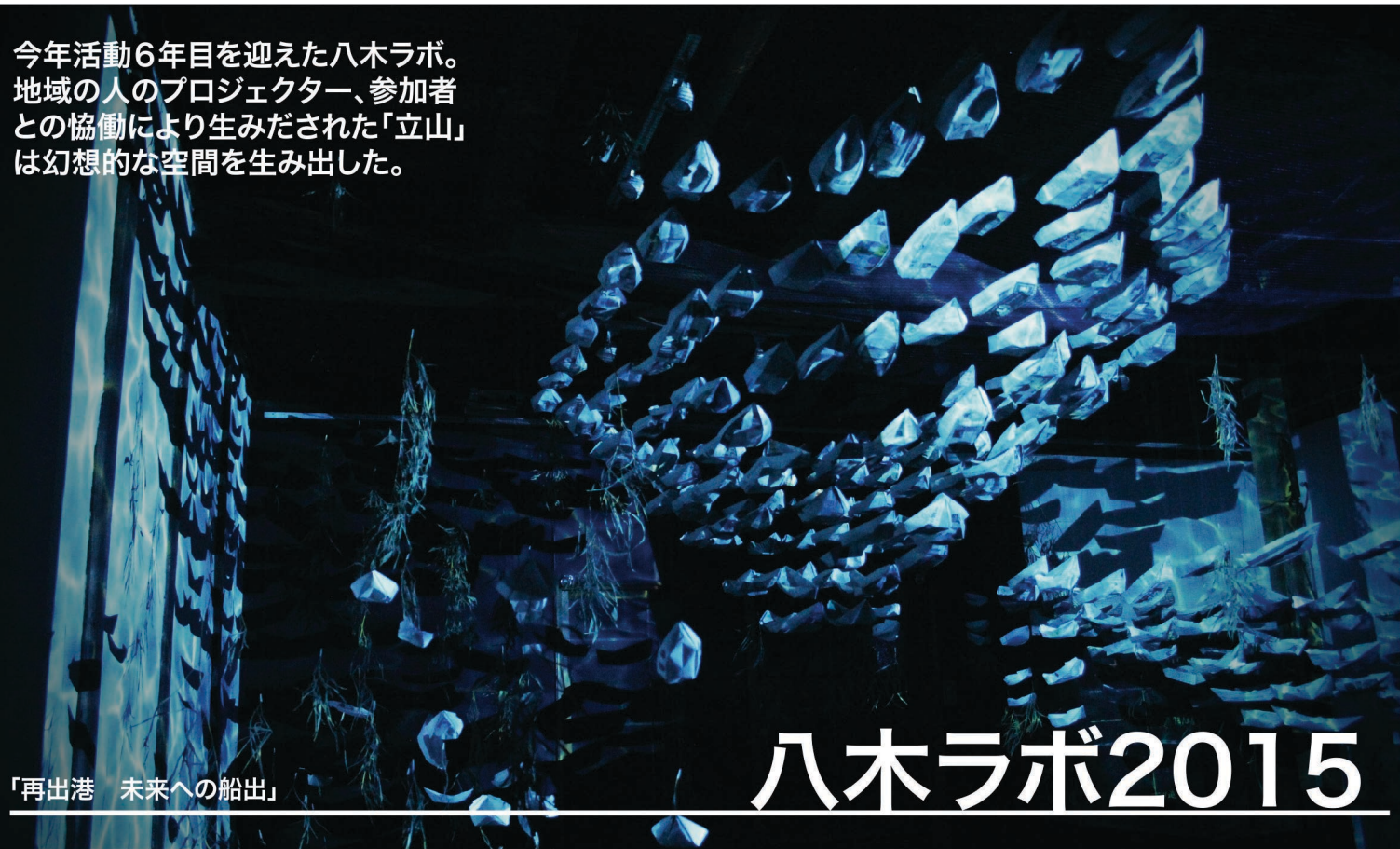
地元の高校生が手伝いに来てくれました。



パレット屋台コンペ

今年は ATACOM 後の特別企画として、パレットを使った屋台を作るコンペを行いました。成松のお祭りで道行く住民に審査をしてもらい、選ばれたものを実際に学生の手で作り、お祭りにこのパレット屋台を使って出店しました。

今年活動6年目を迎えた八木ラボ。
地域の人のプロジェクター、参加者
との協働により生みだされた「立山」
は幻想的な空間を生み出した。



「再出港 未来への船出」

八木ラボ2015

住民が改修。 年々増え続ける空き家は私達八木ラボにとつ
「立山」で活用。でも、八木地区の住民にとつても重要な問題
だ。私達が「立山」を作る際に借りた空き家が取り壊されたことも。

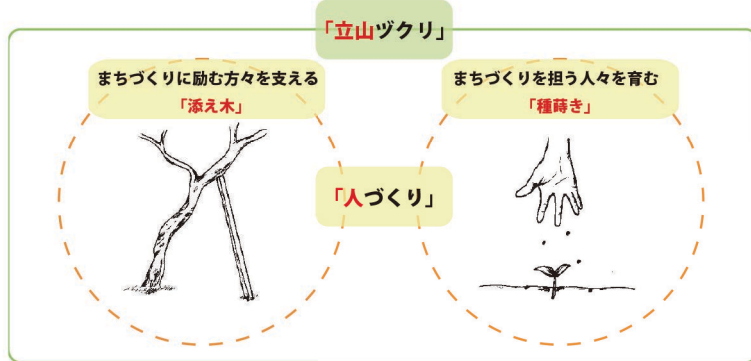


八木地区の住民が改修したWacca

節目である5年を超えた八木ラボは今年、学生の間からも八木地区の住
民からも変化を求める機運が高まっていた。その中で、昨年地域住民によ
って空き家(一昨年関西大学が立山で使用した)を改修し、ギャラリーがオ
ープンした。その改修には八木地区の小学生も参加し、WS形式でみんな
で土壁塗りをしたという。八木地区の動きがすこしずつ見えてきた証だ。

作品が1つへ。 今年、立山の提案は3作品まで減少した。
協働が導く しかし、その密度は年々濃くなり、学生も本気
で悔しがった。しかし一度立山の製作が始まるとそれぞれの案の重要な要
素がひとつに混ざられ、完成しつつあった。そこへ、かつて子供達と立山を
造るイベントをしていた八木地区の住民が訪れ、何か自分に手伝えること
は無いかと声をかけてくださり、プロジェクターを貸していただき、立山の完
成度が飛躍的に向上した。今年はカップルが立山に写真を取りに来る等、
八木地区の住民が驚くほど嬉しい反応を頂いた。

今年、立山の提案は3作品まで減少した。
しかし、その密度は年々濃くなり、学生も本気で悔しがった。しかし一度立山の製作が始まるとそれぞれの案の重要な要素がひとつに混ざられ、完成しつつあった。そこへ、かつて子供達と立山を造るイベントをしていた八木地区の住民が訪れ、何か自分に手伝えることは無いかと声をかけてくださり、プロジェクターを貸していただき、立山の完成度が飛躍的に向上した。今年はカップルが立山に写真を取りに来る等、八木地区の住民が驚くほど嬉しい反応を頂いた。



「添え木」と今年の目標として八木ラボが設定したのは添え木と種蒔き
「種まき」。だ。活動を始めて3年が経ち、八木ラボの活動の幅は大き
くなり、小学校での立山のWS授業を始め関わる住民も増えてきた。
waccaの改修など、地域の添え木の役割と小学校WSによる種蒔きの役割
がこれからの八木地区のまちづくりプレイヤーを育てていく。
これが八木ラボの小さなことから初めるまちづくりである。
また、立山の資源も地域から集めているので経費も昨年度よりも削減する
ことができた。添え木は添えられ、種は芽を出し始めている。



プロジェクターの光を利用して影絵を利用して遊ぶ親子

求められる 次の段階 八木ラボは2015年12月13日に開かれた日本建築学会近畿支部主催「第6回アーバンデザイン甲子園」にて優秀賞を頂いた。
立山の地域性と、小さなことからゆつくりとまちに参加していく姿勢が評価されてのことであったが、一方で次の段階が求められ
た。地域との関わりは十分に密になった今、空き家がなくなっていく現状に一步踏み出したまちとの関わり方が地域からも、学生からも必要になる。



八木ラボの立山に集まる人



昨年晩成小学校で立山を作ってくれた



毎年声をかけてくれる隣のおばあちゃん



今年も祭りの終わりにみんなで打ち上げ

祭りほどこまで。 増える空き家

八木ラボが関わる夏。
それ以外の期間私たちは八
木のまちをしらない。
空き地・空き家がどんどんと
増えていくなかで私達の活
動が本当にまちに愛着を生
んでいるのか。
本当のまちづくりは今からが
本番となる。



増える空き家

2010	2011	2012	2013	2014	2015
立山ツクリ	空き地活用 休憩所づくり	地域から竹を切らしてもらう	空き地活用 ワークショップ	立山ツクリコンへの講師会を八木で開催	立山の材料として地域から新聞集め
			晩成小学校で立山ツクリ ワークショップ	立山製作場所をオープンにし、立山ツクリに参加してもらう	地元で立山を作っている人々にお話を聴く
			祠設置のお手伝い	祭りの打ち上げを地元の方々と一緒に	
			下ツ道に灯籠で飾らす		
			奈良芸術祭 はならゑとのお手伝い		



Project OSC

様々な人とつながりながら協働し、
多くの人を巻き込みながら、
まちや広場について考えるプロジェクト

■Project OSC とは

Project OSC とは、大阪ステーションシティ (略して OSC) の魅力を発見し、『大阪ステーションシティらしいまちの風景』を生み出していこうというプロジェクトです。



■OSC の屋外空間について

OSC には計画された広場と、店舗と広場をつなぐ通路によって外部とのつながりを感じることができます。しかし、OSC は都市部で駅と一体になっていることもあり、規制や制約が厳しく、屋外空間を自由に活用できないという問題もあります。本プロジェクトでは、そのような規制や制約を考慮しつつ、OSC の屋外空間の使われ方について考え続けています。

■継続し続けている理由

調査、提案、実施の流れを継続的に繰り返してきたことにより、過去から現在までの資料やアイデアの蓄積があります。ずっとその「まち」を見続けているから、この場所の空間的な魅力や、季節の変化によって変わる魅力、この場所ならではの規制や制限等に対する理解も深くなってきています。

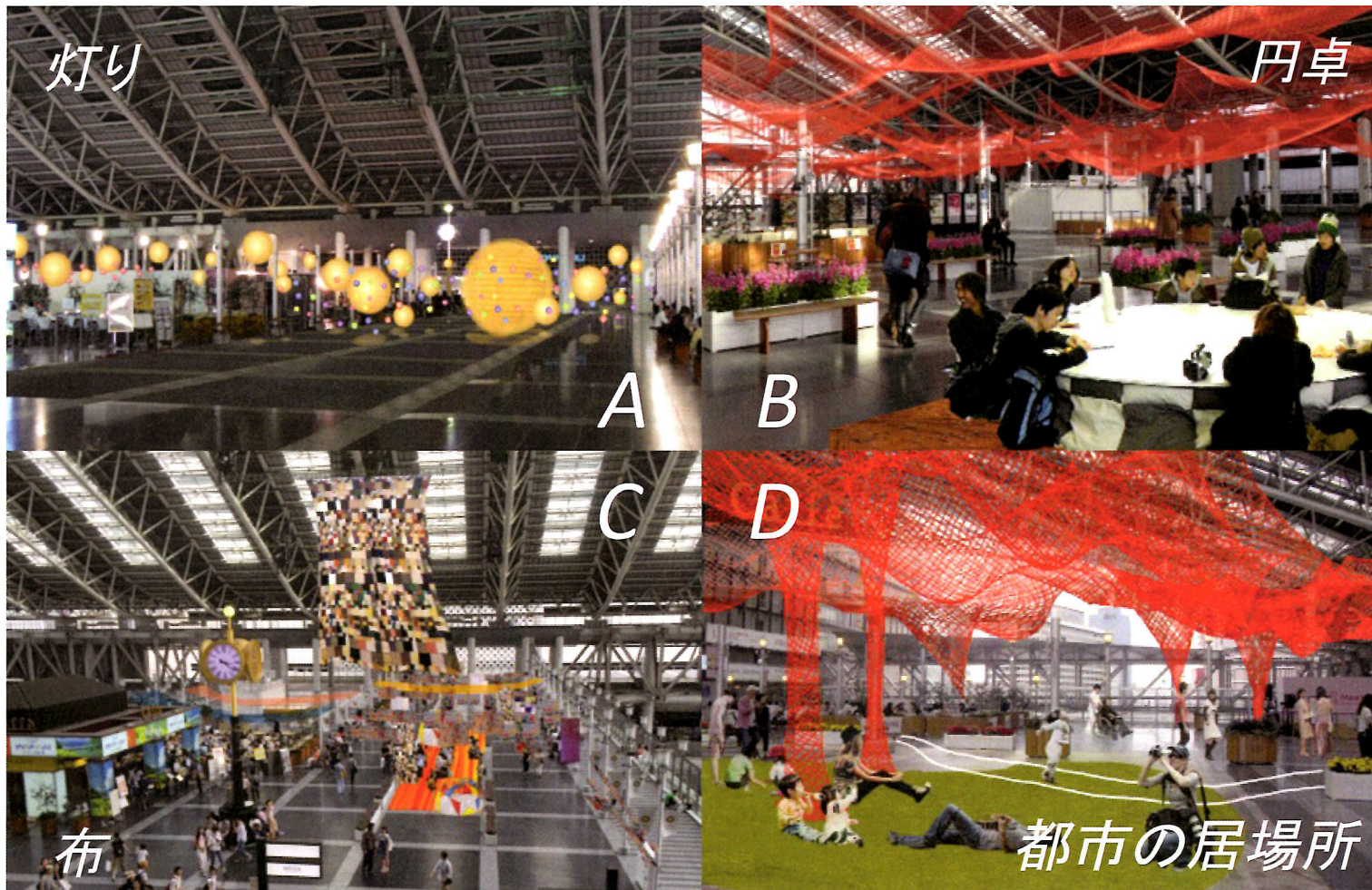
さらにこの「まち」には一般の住民の方の様な、この施設を利用する人と、自治会に参加している住民の様な、管理会社の人、そしてこの施設に働きにきている人の3種類の「人」がいます。そのような人達との信頼関係や認知度等も継続的に活動し続けているため、年々高まってきています。

まちをデザインする際は、多くの人との関わりや、多くの時間をかけることが必要になります。そのため、継続的にまちに関わっていきながら、まちの住民と一緒にまちのあり方を考えていく。そのような、プロセスの辿っていくまちづくりを大阪ステーションシティでも実現するため継続的な関わりを続けています。



■9月の検討会

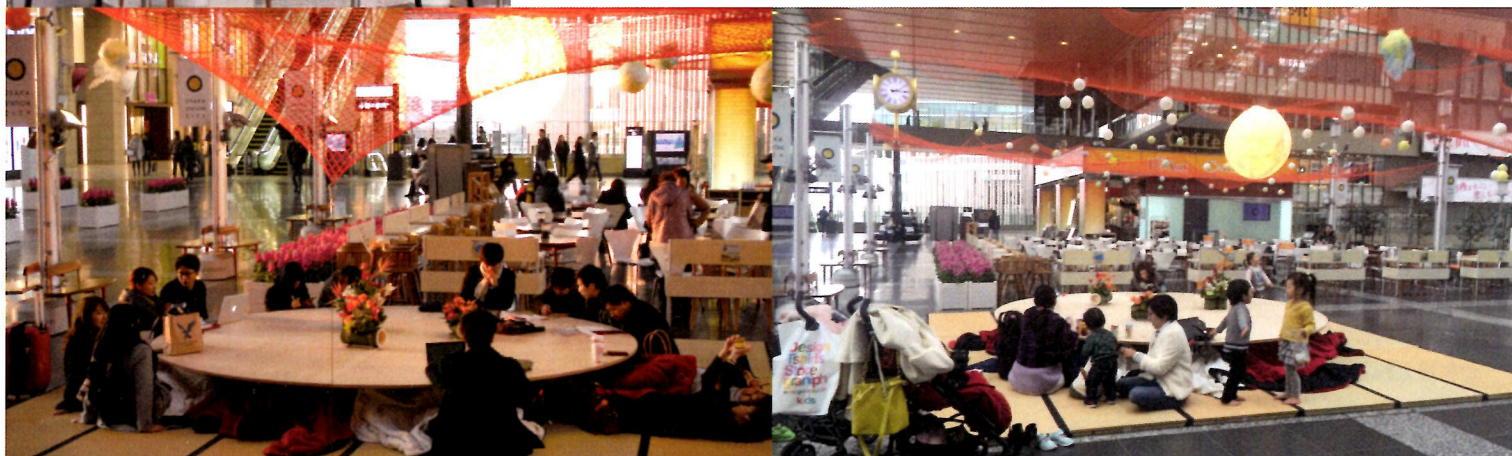
今年度は2月に実施を行う事を目指し、9月に現地で現地の事を考える検討会を行いました。9月実施の狙いとして、2月実施へ向けて現地で実験的に考えることに加えて、私たち学生が現地で現地の事を考えている風景を広場につくることがありました。4つの提案を考え、広場で会議をし、実験をし、発表会を行いました。その様な広場の新しい使い方をしている行為が、広場に新しい風景を生んでいました。



■2月実施について

円卓と明かり、網、畳、パレット等を使い、利用者に、広場の新しい使い方をしてもらえようという提案を目指しています。例えば、カウンターにもたれてお酒を飲んだり、円卓に座って作業をしたり、仲間内でおしゃべりしたり、ぼーっとしたり、という様々な人の行為が広がる風景を、時空の広場につくれればと考えています。

また、2月という時期なので、網のライトアップや、明かりの演出がロマンチックに見えたり、カップスープやホットワインが美味しく感じられたりと、「寒さ」という要素も肯定的に捉えていける様な演出や仕掛けも計画中です。私たちの実施を通して、時空の広場という、特殊な広場の今後のあり方の1つを示すことが出来ればと考えています。



2015 年度の活動における協働者・団体

【咲っく南花台】

・河内長野市役所 /

谷ノ上浩久、藤田晃正、内田厚、東映道、今矢麻衣子、山田浩太

・大阪府 / 金森佳津、廣瀬武夫、田辺博

・株式会社タニタ名倉麻衣、 / 猪野正浩、土志田敬祐

・南海電鉄 / 脇田和憲

・UR 都市機構 / 島英輔、川原大輝

・特定非営利活動法人 SEIN/ 宝楽陸寛

・atelier NOAHNOOR/ 天川麻子

・株式会社アーバンリバーズ / 太田隆司

・株式会社コノミヤ

・医療法人永広会 島田病院

・大阪府森林組合ウッドベースかわちながの

・株式会社　長尾工務店

・うのの建築事務所 / 野々山稔

・関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト

江川直樹、倉知徹、宮崎篤徳、高岡 淑恵、保持尚志、菊田純一、安原秀、三谷幸司、荒木公樹

・京都府まちの公共員 / 辻村修太郎

・関西大学建築環境デザイン研究室

奥川翔、因田 恭崇、塚原 健司、河股 智矩、福間 航、山本楓、牧角雄、福本優、銅田匠馬、大田美奈子、奥野智士、柴田太郎、中馬啓太、橋本祐紀、山中晃、村上真央、松原一樹、早川凌平、長江晟那、阪井勇樹、倉本義己、光田真菜、小野明寿香、石原葵

・関西大学環境都市工学部建築学科

二川菜奈、松下航大、新島祐介

・関西大学佐治スタジオ / 出町慎、出町綾、植地惇、関谷大志朗

・南花台自治会のみなさま

・UR 南花台自治会のみなさま

・南花台まちづくり会のみなさま

・南花台自治協議会のみなさま

・南花台学区区青少年健全育成会のみなさま

・南花台防犯ステーションのみなさま

・たくさんの南花台住民のみなさま

- カヌーづくり協カ -

・関西大学奨学支援グループ

・河内長野市

・南花台自治協議会

・南花台まちづくり会

・健全育成会

・青少年指導員

・こどもクラブ

・大阪府森林組合ウッドベースかわちながの

・西尾工務店西尾高雄氏（講師）

・コノミヤ南花台店

・学生

柴田太郎、岡本悠志、奥川翔、中馬啓太、太田美奈子、石原葵、光田真菜、福本優、関谷大志朗、二川菜奈

・参加者（住民さん）

中野恵那、青山秀太、中谷唯斗、牛田凜、牛田朱、柴崎凜、中野理子、横井陽香、河口大智、河口陸社、河口智明、鳥羽哲平、西岡波琉斗、西岡優、林龍之介、友成心咲、友成心香、友成心音

・参加者（自治会関係）

畑岡和夫、高野良作、中林幸一、池西祐二、兼頭郁夫、向平健伸、旭繁、阿草進治、今須富士雄、藤本潤三、森口真典、古川晴造、牧芳弘、宮西幹夫、野口潤三

- ストック活用 -

・太田隆司（株式会社アーバンリバーズ）

・藤田晃正（河内長野市役所　都市づくり部　都市創生課）

・大田昌典（河内長野市役所　都市づくり部　都市創生課）

・河内長野市役所

・お菓子工房ナボット

・関西大学建築環境デザイン研究室

福本優、柴田太郎、中馬啓太、銅田匠馬、山中晃、

橋本祐紀、村上真央、倉本義己、松原一樹

・関西大学環境都市工学部建築学科

二川菜奈

- 鉄部塗装 -

・UR 都市再生機構

・KSDP 提案部会

安原秀（OLA の会）、三谷幸司（三谷都市建築設計室）菊田純一（菊田建築計画研究所）、荒木公樹（空間計画（株））

・宮崎篤浩

・関西大学建築環境デザイン研究室

福本優、銅田匠馬、大田美奈子、中馬啓太、橋本祐紀、山中晃、松原一樹、倉本義紀

- 住戸改修 -

設計・工事期間：2015年4月～2016年2月13日　　住戸公開日：2016年2月14日

・関西大学建築環境デザイン研究室

大田美奈子、中馬啓太、橋本祐紀、松原一樹

・独立行政法人都市再生機構

・KSDP 提案部会

安原秀（OLA の会）三谷幸司（三谷都市建築設計室）菊田純一（菊田建築計画研究所）荒木公樹（空間計画（株））

・関西大学建築学科教授　江川直樹教授

～ヒアリング調査協力者～

・株式会社クヌム様

・B 地区自治会（男山団地）

【佐治スタジオ】

-ATACOM6-

・関西大学佐治スタジオ

出町慎、出町綾、植地惇、関谷大志朗

・建築環境デザイン研究室

銅田匠馬、山中晃、阪井勇樹、長江晟那

・関西大学環境都市工学部建築学科

黒河尚明、小寺沙季、中村穂希、平野彰、宮森祐允、横山哲也、

太田雅紀、河合容子、木村岳、熊野佐亮、谷直樹、新島祐介、

二川菜奈、丹羽康介、畑崎萌笑、濱家茉莉、東浦隆介　古久保有香

前田丈、山田麻矢

・関西大学建築学科教授 / 江川直樹

・LEM 空間工房代表 / 長町志穂

・土井恵介（ガレージの提供）

・中央地区自治会振興会

・やすら樹

・成松ロイヤルクラブ

・地域の造り物の先人のみなさま

・氷上西高校まちづくり部

・ATACOM　OG　亀井智美

- ハンガー提供協力 -

赤井さん、赤星さん、アシケン商店、足立さん、今西さん、上田さん、植田さん、梅谷さん、上野さん、植野さん、太田さん、大村さん、荻野さん、カットパーマ屋さん、金子さん、川口さん、北野さん、窪田さん、クリーニング屋さん、小谷さん、小寺さん、小南さん、小森さん、佐野工務店さん、散髪屋さん、篠崎さん、田辺さん、谷川さん、谷本さん、谷垣さん、堂東さん、ときわ堂、中尾さん、西田さん、橋本さん、長谷川さん、廣瀬さん、美容室サロンド・モア、藤原さん、藤平さん、細見さん、丸茂さん、武蔵、村上さん、安井さん、荻野さん、（株）藪内石材店さん、山本さん、吉積さん

【Project OSC「冬あかりと暖らん」】

・関西大学建築環境デザイン研究室

岡本悠志、高木翔平、福間航、小野明寿香、奥川翔、河股智矩、山本楓、毛程遠、中馬啓太、山中晃、柴田太郎、奥田貴之、松原一樹、倉本義己、光田真菜、堀井登文、村上真央、石原葵、蔡昞、村上真央、早川凌平、竹谷龍馬、阪井勇樹、長江晟那、銅田匠馬、奥野智士、大田美奈子、橋本祐紀、牧角雄、塚原健司、因田恭崇

・関西大学環境都市工学部建築学科

松下航大、小寺沙季、森岡永遠

・公立鳥取環境大学

益本省吾、北村亮太、村江祐真、今村峻也、木村美月、広畑秀和、田和梓、今堀淳司、田中絵美里、尾上功哲

・武庫川女子大学

東山優香、吉田梨恵、横野真優香、森本実希、佐々野晶子、石原奈実、鶴沢佳奈、滝本泰子、吉田麻衣

・株式会社木村工務店　木村貴一、木村貴徳

・mellow wood　池田貴也

【八木ラボ 2015】

開催日：2015年8月16～25日

（制作合宿からお祭り本番・片付けの期間）

・建築環境デザイン研究室

岡本悠志、奥川翔、高木翔平、中馬啓太、奥田貴之、村上真央

・関西大学環境都市工学部建築学科

松下航大　奥田泰司　右山将吉

- 衣川會館 -

・衣川邸を考える会

・佐治倶楽部

・佐治スタジオ

・上町自治会

・青垣商会

・丹波市地域おこし協力隊

・米谷良章設計工房

（谷川建築、エクステリア ADACHI、三国共同左官、サジサービス、株式会社六輔舎、丹佐商事、アダチ電化サービス）

- 佐治農園 -

・佐治倶楽部

・佐治スタジオ

・本町自治会

・足立則夫（地元農家）

・大路こどもの森

・ランドブレイン株式会社

・芦田ポーター

・株式会社ご近所

・こぶなぐさ

・小島穂高（OPMOVIE 作成）

・下山建築設計室

- 災害復興ワークキャンプ -

・佐治スタジオ

・いちじまびと（ボランティア）

・一般ボランティアの方々

・アオシスいつせ

・前山自治会

・大阪ターミナルビル株式会社

企画部　岡取締役企画部長、山本課長

施設部　小島課長

営業部　伊藤俊司、古田直也

安全企画部　赤塚様、馬木様

・細川未生流の皆様

・特定非営利法人八木まちづくりネットワーク

・愛宕祭奉賛会

・八木まちづくり協議会

・八木地域の皆様

【そして、ここに書ききれない見守ってくださったたくさんの方々】